

## 第4回夕張市総合戦略検証委員会の結果等について

夕張市総合戦略検証委員会

1 日時及び場所 令和元年11月11日(月)18:00~21:30 夕張市役所特別会議室

### 2 検証結果

夕張市地方版総合戦略(以下、「総合戦略」という。)登載事業の進捗状況、課題等について、検証委員会において市各課担当からの説明を聴取し、確認した。

順調に推移している事業がある一方、一定の成果を得るためには引き続き取組を継続していくことが必要である事業もあることから、そうしたものについては取組を着実に進めていくために、状況に応じた取組内容の検討・見直し等を適宜行っていく必要がある。

### 3 質疑等内容

(戦略1-①:若年層・女性向け低家賃住宅の整備)

委員発言:低家賃賃貸住宅の整備について、目標値が平成31年度までで設定されていて、既に目標を達成しているということだが、現状、充足状況などを考えて、来年度以降の計画等はいかがか。

市応答:とりあえず今、平成31年度時点で民間賃貸住宅の補助は計画上終わっているというところで、平成32年度以降は、今回の総合戦略の見直しで考えていかなければならないというところと、平成31年度の建設予定戸数が16戸のところを8戸ということもあり、市民、転入者または民間賃貸住宅を希望している人のニーズと、供給する業者のニーズがどうなのかというのが、まだ分からないところがあるので、今後それをどうしたらいいかを検討する必要があると考えている。結局、入りたい人はいるが建てるほうがいなくなると、なかなか難しい。今回業者が底と見たのか、たまたま今現在では手を上げなかったのか、そこがよく分からないところがある。

委員発言:敷地の問題だと思う。市の方に敷地がないかという相談はないのか。

市応答:平成31年度についてはない。市からもこういう所があると、事前に用意はしている。ただ、一定程度の広さを持った土地がだんだんなくなってきているので、そこが若干難しい。また、拠点複合施設のエリアをどうしていくかということと、その周りをどうしていくかという具体がないので、建ててしまった後から何故あそこに建てたのかとならないように、その議論が必要だと考えている。また、夕張市は人口が少なくなってきたが、一定程度まとまった土地があるのかと言われると、意外とそうでもない。普通の個人の家一軒を更地にして、たまたまそれを市が取得しても、一軒分だけでは建物が建たないというところがある。その辺りがいま苦慮しているところである。

委員発言：無計画に市有地を譲渡するのは、後々困る。慎重にやっけていかないといけない。

(戦略1-②：子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業、戦略1-⑧：空家バンク制度を活用した不動産の流動化促進)

委員発言：子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業、空き家対策の関係で、銀行の方でも個別の商品を揃えているので、協力して取り組んでいければと思う。あとは今年、北広島で、空き家対策のセミナーというのも開催しており、これから順次道内各市で開催していきこうという動きもあるので、そういったところもまたご案内させていただきなから、地域に色々お手伝いできることがあればと思っているので、いつでも声を掛けていただきたい。

(戦略1-⑨：認定こども園の整備)

委員発言：認定こども園の整備に係る公私連携法人について、詳しくご説明いただきたい。公私連携法人という性質のものがあるのか。

市応答：認定こども園の事業主体については、公募によって事業者を募るのか、公募によらないで事業者を募るのか、まだ検討をする必要があると考えており、令和2年度中の早期に、方向性を決めていきたいと考えている。

(戦略2-④：総合スポーツクラブ設置によるスポーツ交流ビジネス創出)

委員発言：平和運動公園については、非常に良い施設で利用者も非常に多いという話を色々なところで聞いている。一方で、平成29年度より宿泊施設、合宿等に利用していた施設が予約を受けられなくなったということで、今後の展開を色々考えられているとは思いますが、具体的に動いているもの、これから動こうとしているものはあるか。

市応答：観光客あるいは施設利用者の増加をどのように図っていくかということで、具体のものはまだ検討段階にあり、はっきりとしたことは申し上げられないが、ご指摘のとおり施設の評価は高いと聞いている。ただ、天然芝の管理を臨時的な職員1~2名でなんとか支えているという状況なので、施設利用の利便性の確保というところでは、やはり天然芝も含めてどのようにこの施設を守っていくのかというところが大きな課題である。今後、映画祭が夏の開催になるということも踏まえて、この立派な体育施設、複合施設も同時に活用していただけるような取り組みも、担当課と詰めて検討していきたい。

委員発言：施設の管理費はいくらぐらいか。

市応答：グラウンドも含めた全ての主要体育施設の平成30年度の決算額では、人件費も含めた委託費として約4200万円だった。

委員発言：グラウンドにいる2～3名の方と、体育館にいるスタッフの数が大体の人件費か。

市応答：体育館には市で直接雇用している地域おこし協力隊がいるので、全員ではないが、スタッフは10名はいる。

委員発言：何が言いたいかというと、お金の落としどころが上手くいっていないと思う。スキーだとスキー場と宿泊施設が同じなので、例えばスキー場を利用した大会に来た選手の宿泊に関しては、ホテルからリベートをいただいて、大会運営に回すとか、大会の機材を買うなどしてコントロールしている。そこを違う団体でやっているのだから、グラウンドを使用した者が落としていくお金を上手く作るというか、もしくはグラウンドを利用した宿泊者のお金を上手くグラウンドに回すというような取り組みが最初から出来ていないので、そこを作っていく必要がある。施設の老朽化や天然芝の維持管理等、今ある夕張市の宿泊施設としっかり協議して今後システムを作っていくか、上手くいかない話だと思う。

今年度の全道中学校スキー大会を夕張で開催できることになった。これをいきなりやるとしてもやらせてくれない。過去の話から言うと、8年前に医学生の大会を夕張に持ってきた。それも、40年ぶりぐらいに大きな大会を開催するというので、その時にホテルからのリベートで何とか色々な機材を揃えていって、ここまで8年くらいかかっている。そういったことを含めて、夏の事業、グリーンシーズンも、何か上手くいくシステムを作れるのではないかと思う。そういったものを活用すれば、例えばグラウンドの管理費なんかは当然作れる話だと思う。例えば、グラウンドの利用者から、管理費を組み込んで使用料を徴収しないと、おそらくいつまで経っても前に進めない話だと思うので、そういったことも協議して欲しい。近隣のサッカーチームや野球チームが色々来ていただいているのはもちろん凄く嬉しいが、施設が良いから来るだけでは、将来に向けてのビジョンが何も無い。先日、私もたまたま東京のラグビーを観に行ったら、チケットがなんと5万円だった。その掛ける7万人でいくと、3億5千万が施設に入る、というふうにその施設を見ていた。折角良い球場や施設があるので、そういった、人が集まり大きな収入を得るようなことができるイベントをちゃんと作っていければ、お金を作っていくことも当然可能な話だと思うので、そういったものも夕張市民としては希望したい。

#### (戦略3-②：農業者、農協、市の連携による産地力強化)

委員発言：実際に個々の農家の収支のバランスというのは上手くいっているのか。

市応答：生産者から伺っている中では、上手くいっているようである。

委員発言：そうであるならば、人員の確保が目玉の課題というところか。

市応答：その通り。農協との話し合いの中でも、必ず労働力・人手不足の解消と、あるいは人を呼んで来たとしても、住む家がないと固定化・定着できないので、この二点については強く要望されている。

委員発言：今、中国の方から結構来ているのか。

市応答：63人くらい来ている。

委員発言：今度中国で冬期オリンピックがあつて、北京の上に張家口市というのがあるが、その市から夕張と姉妹都市の要望が来ていて、実はちょっと動いていたのだが、中国の役人は年に2回しか外国に出られないということで、今回は話が進まなかったが、姉妹都市のようなものを締結して、市として農家をバックアップできるような体制をもっと明確にしてほしい、あるいは取り組んでいただきたい。来年以降になると思うが、またそういった機会があればご相談させていただく。

委員発言：農協と市との連携の強化という部分で、今夕張では個人で農業をされている方が中心だと思うが、法人で規模を大きくして展開していこうというような動きを農協なり市で推奨したり、そういう方向性はあるのか。

市応答：夕張ではやはり特殊性と言うか、他の空知地域でも夕張以外の所は生産規模が大きく、法人化の動きはあるが、夕張市の場合は実作付面積250ヘクタールのところに100戸いるので、1戸あたり大体2.5ヘクタールの作付けしかなく、小さい中での個人経営というところが主流で、他の地域とは違い、なかなか法人化が馴染みにくいところがある。また、メロン産業自体が職人の世界になってくるので、家族経営の中で技術伝承がされているというところもある。数例はあるが、そういった地域の特殊性が故に、なかなか法人化が進まない。メロンの農業法人は夕張市内に3件あるが、その方々は皆、夕張メロンではないメロンを栽培している。夕張メロンは品種的に手作業が多いので、規模を拡大するためには出向さんの労働力が必要となるネックがあり、規模を拡大するメリットがあまり得られづらい品種である。

委員発言：それよりもブランドを維持して高く売ったほうがいいと。

市応答：その通り。単価の高止まりという戦略で考えているかと思う。よく空知・十勝で法人化で盛んに融資が行われている所があるが、夕張市では地理的条件や生産面での特殊性が故になかなか進んでいないというのが現状である。

### (戦略3-③：市有林を活用した薬木産地化への挑戦)

委員発言：陀羅尼助(だらにすけ)をご存か。正露丸の1/10くらいの粒だが、腹痛にもものすごく効く。何で知っているかということ、家内が関西で、関西人がみんな知っているわけではないが、おなかの弱い人はみんな持っている。北海道では知らない人が多いと思うが、関西地区の人たちはなにかあったら「陀羅尼助飲みなさい」と言ってくれる。すみません、余談です。

市応答：正露丸もキハダ由来のエキスが含まれている。陀羅尼助はキハダの樹皮を煮詰めるか粉末にして直接利用されている。

委員発言：キハダの苗木はどうにかなりそうなものなのか。

市応答：将来的には、外に頼るのではなく、自前で生産できないかと考えてはいる。奈良県の天川村フォレストパワー協議会が取った助成金を来年度申請しようかと考えていたが、同じような内容で先を越されてしまったので、資金繰りの目途が立たない状況となっている。自前で、直営で作りたいという思いはある。

委員発言：資金があれば直営で作れるのか。

市応答：運営資金は目途が立っているが、初期設備の投資資金が3、4千万円かかるので、そこに農林中央金庫の助成金をあてにしていた。同じ内容で先を越されたので、二番煎じになると助成金が当たらない。工夫してトライしていきたい。

委員発言：天川村では苗木を自前で作っているのか。

市応答：自前で種を採取して、障がい者が働く農業生産法人とコラボして苗木を生産している。夕張でもやりたいと考えている。

委員発言：苗木の輸入は検疫的に難しいのか。

市応答：漢方薬として使用できるものは、日本薬局法により使われる樹種が指定されている。日本で栽培するものは日本のキハダ品種ではないといけない。大陸は大陸でやはり規約があるが、あつちはあつちでももちろん漢方として使われていて、その苗木を持ってきて育てても漢方薬の原料としては利用できない。色々規制がある。うちの苗木もツムラの遺伝子検査で、国内の品種であるお墨付きをもらったうえで育てている。

委員発言：他の地域では生産組合や協議会といった主導的な組織を立ち上げて、資金調達面についても色々模索しながらやっているということで、夕張市もまた当然そういった人材が必要というところもあるのであろうが、補助金等の制度も色々あるだろうし、JA以外にも各金融機関で農業という分野にも力を入れてきている。そういった部分でも金融機関を利用してはいいのではないかと思う。

### (戦略3-⑦障がい者の就労の場の確保)

委員発言：市内の企業等でツムラ以外で、障がい者福祉サービス事業所へ発注している事例はあるか。

市応答：市内企業としては、いまのところはない。行政サービスの中で、福祉除雪（※高齢者の除雪）を主要事業所に委託しているものや、消防でクリーニング業務を発注しているというものがある。

委員発言：市内の企業が、どういう福祉事業所が市内にあって、どういう業務をできるかというのを、よく分かっていない企業が多いように思うので、そういう所を発信できれば、もしかしたら発注してくれる企業が増えてくるのかなと思う。

委員発言：簡単に言うとこれは、マッチングさせているような事業ということか。

市応答：そのとおり。

委員発言：それでいくと、夕張市内の企業の業務内容というものを全て把握したうえで、そこに対して、障がい者の人たちがどこでどうできるかというような、育成というか訓練というか、そういうもののマッチングをさせていく話なので、全市にわたっての企業の特性や事業内容というのを一回調査しているのか。

市応答：一応ハローワークも関係しており、個々の担当課で、市内の産業もおさえている部分もあるので、そういった連携の中でやっていきたいと考えている。

委員発言：その細かい内容が全てだと思う。その中で、障がい者の中でどういった方がいるか、どういったことができるか、というところのシンプルなシステム化を図ってもらえれば上手くいくような感じがする。障がい者が全部で何人くらいいて、年代別の把握はできているのか。

市応答：個別に拾えば当然ある。直近でいけば、手帳を持っている方という限定ではあるが、市内に880名おられる状況である。9月末の市の人口が7907人なので、そのうち11%が障がい者の割合ということになっている。全国平均の1.5倍となっており、なかなか高い地域だと考えている。年齢構成についても、高齢者人口が非常に高い割合なので、やはり身体障がい者含めて高齢者が多いというのが、ある程度イコールする部分もある。そういった統計的なものや、状況的なものも把握している。最終的には事業所によってもどういう年齢層がいるとか、どういう業務ができる障がい者の方がいるかというのもあるので、そういったものも委員がおっしゃったようにマッチングという部分で、お互い持っている情報をどう上手く繋げられていくかということを考えており、適宜必要な情報を出しながらやっていきたいと考えている。

委員発言：その880人のうち、高齢の方と就労可能な方の割合はどれくらいなのか。

市応答：高齢者が大半を占めているという状況だが、まだまだ若い方でも障害を持っている方はいるので、そういう方がマッチングできればと考えている。

委員発言：それと、企業側からの要望によってということ言われているが、そこに力を入れるのであれば、逆にこちらから企業の事業内容に合わせて働ける者を育成・訓練等した後、企業に育成していってもらおうというような積極的な方法を探れるようになってほしいと思う。

委員発言：夕張市に限らず、道内国内含めて昨今は人手不足の状況なので、今夕張に住んでいる障がい者の方の、事業者の雇用に耐えうる能力・スキルを把握して、事業者にこういう方がいますよというのを積極的に提供していくことが結果的に雇用に繋がっていくと思う。次年度以降そういったところに力を入れていくことで成果も出てくるのかなと思うので、よろしく願いたい。

(戦略4-②：学習塾と連携した学習意欲向上プロジェクト)

委員発言：公設塾キセキノについて、今、人員としては地域おこし協力隊の方に担っていただいている状況かと思うが、今後の持続性・継続性を考えた時に、このままの状況でいいのかというのをそろそろ決めないといけないと思うが、人員の想定というのは決まっているのか。

市応答：ご指摘のとおりで、そろそろ地域おこし協力隊による体制というのにも限界があるように考えられるところで、委託も含めて検討しているところである。ただ、費用の問題や、具体的にどこまで民間の方にやっていただくかということもあり、そこはまだ検討中ではあるが、市としても認識は同じである。ただ、いきなり民間委託というの難しいであろうし、地域おこし協力隊の方から、仮に将来民間委託ということになるのであれば、どのように移行していくのか、例えば地域おこしの方を1名ぐらい残すとか、そういうところも踏まえて、検討していく必要がある。

委員発言：収益性のあるものでもないから。

市応答：塾とは言いながら民間の塾とはまた違うと思うので、そこが公設塾の難しさというところかと思う。

委員発言：今、行政としてロードマップというか、何か情報発信が遅れているというところはあるのか。例えば、キセキノの運用が何か衰退しているとか、衰退していく方向であるとか。

市応答：取り組み自体は変えていないが、講師の方が3名いたのが、1名退職されてしまい、現状2名となっている状況で、そこはキセキノの体制が今までと比べて弱まっているというのはある。

委員発言：それに対しての、もともとあった形に戻すとか、予定等は。

市応答：現状については、人員の補足というのを考えて募集をかけている状況で、その結果がどうなるかはまだ分からないが、この状況がこれからも長く続くのであればそれは問題だと我々も認識している。ただ、予算のない中で、どういった代替策があるのかを色々なものを想定して検証している段階なので、今すぐにお答えできるものがないが、苦しい状況というのは事実である。

委員発言：英語の先生が辞めてしまって、後任が見つからないという状況である。辞めた先生が非常に良い先生で、なかなか後任の方が都合よく見つかるかというのは難しい状況だと思う。

委員発言：それが大きいというか、それが主な課題か。

市応答：キセキノに限らず、高校魅力化全体について、きちんと検証して次に繋げなければいけないと考えている。市のスタンスや取組自体が変わっているということはない。

(戦略5—①：都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進)

委員発言：清水沢の拠点複合施設の内容はどういったものか。

市応答：機能的には何か所かに分かれており、発表ができるホール、公民館の代わりになるような多目的室、子育て支援ということでお母さんや幼児が使える子育て支援スペースと図書コーナーが主となっている。それと、防音の部屋をつけている。市民の検討委員会を作ったときに高校生から、バンドをやったりカラオケをやったりするような部屋が欲しいという要望があり、発表会等の練習の部屋としても使えるので整備している。

委員発言：敷地が広いが、外はグラウンドかなにか、遊べるようなものか。

市応答：少し起伏をつけた緑地を整備する予定となっている。

委員発言：それはなにか運動ができたりするような緑地か。

市応答：基本的には幼児等が来た時に少し遊べるような形ということで、緑地のスペースは用意するが、今のところ遊具は置かないように考えている。

委員発言：拠点複合施設は、今ほとんどもう出来上がっているような、今道路を作っているような状況かと思っているが、このエリアは道道の反対側に色々商業施設、コンビニやスーパーがあるが、道路を渡らずに、複合施設側に商業施設を誘致するというような考えや計画があればお聞かせいただきたい。

市応答：そこについては、マスタープランのコンパクトシティの部分でも、拠点を作るときに色々な利便性機能を集約するという計画があるが、具体的にこのエリアにこうするというものまではない。ただそれは突き詰めていって、あの拠点整備エリアという半径200メートル内で、歩いて用事が足せるようにと考えているので、そういったことを含めて検討していかなければならないと考えている。

委員発言：都市拠点が南清水沢にできるということで、そこは南北軸という南清水沢への投資というような考え方だと思う。だから、南北軸をどうしていくかということを考えていかなければならないと思っていて、本町・末広地区をどうしていくか、また紅葉山地区でも公



営住宅の再編なども考えていかなければならないであろう。今後、南北軸というデリケートな計画を考えていく必要がある。

市応答：マスタープランの見直しも、結局それぞれの地域をこうしようというのはあるが、ではどんな機能を残していくかという、なかなか具体が出ていないので、これだけ人口が少なくなると、市民にとって必要なものを、どこに残していくかというのが重要になっていくので、そこを市としても検討したいと考えている。

(戦略5—②：安心の地域医療体制の構築)

委員発言：平成30年度までの進捗・事業効果について、救急出動全件のうち25%、市内分のうち90%というのは、救急出動全件のうち25%を、また市内分の90%を診療所で受けているということか。

市応答：その通り。市内分はほとんど診療所で受けている。まっすぐ市外に行く場合もあるので、それも含めて、25%は診療所で受けている。

委員発言：予算の話で、既に予定額を設定されていると思うが、昨今の資材価格等の高騰等の状況の中で、当初の予定を上回るような状況も見込んだうえでの予算設定になっているのか。

市応答：予算については、抜本見直しの時に、類似規模の診療所や老健施設等を色々聞き取り調査しながら、それを踏まえて予算設定したが、やはりおっしゃる通り、昨今の原材料コストや人件費の高騰はある。加えて、あの場所、市民の利便性や社会医療法人の確保という視点に鑑みて若菜にしたということではあるが、道路沿いで作れる土地が夕張にはなかなかない中で、予定地がグラウンド用地で、若干高いということがあり、そこに行くまでの取り付け道路を作ったり、バスの停留所も変えたり、信号機や横断歩道を作ったりと、これから基本設計・実施設計を進めていくが、更にそういった課題が重なっていくかと思う。また、将来の人口高齢化の推移をしっかりと踏まえて持続可能な地域医療の体制というのをしっかりと見極めて、本当に老人保健施設で40床が必要なのか、市内に特別養護老人施設があるので、入院のベッドは確実に必要だとは思いますが、近隣の栗山赤十字病院まで車で40分はかかるので、そういう状況から本当に必要な地域医療、地域介護というのはどういうものなのか、市民が利用しやすい環境がどういうものなのかを、しっかりと見極めて、今後設計を進めていきたいと考えている。

委員発言：予算を上回る部分が発生したとしても、その分の上積みというのはなかなか期待できないのか。

市応答：厳しいところではあるが、基本的には予算の範囲内でやっていきたいと考えている。